「第五十六回　上野甚作賞」入選歌について

農民歌人・上野甚作をたたえる第五十六回上野甚作賞の入選者（各短歌会代表四選者による）が決まりました。加えて甚作郷土の斎小をはじめ、京田小、藤島小、羽黒第三小、櫛引東小、櫛引南小の積極的な参加を称賛したいと思います。

去る二月六日、東京で開かれた第六十回青少年読書感想文全国コンクールの表彰式で、皇太子殿下が「読書によって豊かな知識を吸収しつつ驚きや喜びなどさまざまな感動を経験し、大きく成長されることを期待します」とあいさつされておりました。

短歌は日本古来のしなやかな文化。次の世代を担う子らの投歌の多いのも頼もしい限りです。地に足をつけ、続けて頑張ってゆきたいものです。

一般の部　【秀作】　二首

■　やはらかき布団を使ふことも無く母つつましく農に終りぬ　　齋藤あい子

農に生きた母への勲章になった歌。選者の私は小さい頃の藁蒲団のぬくもりを思い出し、過ぎ去った遠き日の母を偲んだ。昔は昔でそれなりのしあわせがあったのではないでしょうか…と。

■　男の孫に作り方せがまる藁草履傘寿の指先確かに進む　　田中章子

男の孫との交流があたたかい。今では珍しい藁草履作りの傘寿の作者の指先が誇らしいものに見える。めんこいお孫さんもそのうち覚えて作ってくれることでしょう。ほのぼのと充電しあう情愛が実体験を通して伝わり、明日への祈りともなって、満ちてきます。

一般の部　【佳作】　四首

■　生きてある荒々しさよ裸木の銀杏の梢天を突き刺す　岩松真次郎

裸木の銀杏の実景で、天をさす銀杏のイメージが広がる。的確な眼で季節を切り取った景の広がりがいい。単純明快、堂々とした声調の中に感動がストレートに伝わってくる。ポイントの下の句に連想が広がり、とてつもなく円かで美しい。心の姿勢を見る思いです。透徹した心境に作者の人間性も見えてくる叙景歌として珍しい一作。

■　道問われ思い伝わらず眠られぬ水族館へは着いただろうか　児玉せつ

新仮名遣いで表現されているが、短歌は昔からの韻を踏んでいますから旧仮名遣いが妥当かと思います。道をたずねられた方への気づかいが下の句にこもっていて、夜中に心配している様子が手に取るように見えてくる。人柄な作者の心の動きが豊かな温もりとなって響いてくる。微妙な心理をうまく描写したと思う。

■　諍ひの常にはあれど時折に微笑む妻と五十余年を生く　佐藤芳郎

微妙な夫婦の心理をさりげなく歌ったところに静かな自己凝視がある。五十余年を共に生きた妻との労苦もまっさらな安寧の中にとけこんでゆく。片肘張り合うもいっときの事。“夫婦喧嘩は犬も食わぬ”という喩えもあります。仲睦まじい証拠の歌です。

■　新聞に包まる友の畑つ物手応へ重し大根も葱も　皆川喜子

勝手口にそっと置いていったであろう友よりの葱に大根。新聞に包まれた新鮮な野菜。親しくしている日頃の恩愛を感じます。どっしりとした重さに豊かな温もりが伝わります。いつもの事ながら有難く、友の志への深い敬意が読者にも伝わり、お互いが心豊かになります。

小学生の部　【奨励賞】　十二首

■登下校冬でも忘れずしっかりと止まった車に笑顔でお礼
斎小学校４年　岡部実紅

■仏だんの祖父を見る私さみしさをおさえながらも両手をあわせる
斎小学校６年　佐藤智華

■待ちわびしゴジラ映画父と観る夏の終わりの思い出なりぬ
京田小学校６年　本間輝

■夏休み水泳練習真っ黒にいつまでも水着着ている感覚
京田小学校６年　阿部絵瑠

■初めてだきれいに打てた「メン」の音パーンときれいに一本を取る
藤島小学校６年　布川開渡

■友達とすごした日々が宝物思い出残るこれからずっと
藤島小学校６年　五十嵐里夏

■落ち葉ちり夕ぐれはやい秋のときはやく冬来い寒さに勝つぞ
藤島小学校６年　本間省伍

■東京で何を食べよう何買おう飛行機乗って初一人旅
羽黒第三小学校６年　齋藤怜奈

■朝早くくもった窓を手でこすり白い世界に心がおどる
羽黒第三小学校６年　渡部友里愛

■　心こめおくるお手紙友達へ気持ち伝わるそれっていいな

羽黒第三小学校６年　菅原緑芳

■　八乙女戦残り三秒逆転しうれしさのあまり涙こぼれる

櫛引東小学校６年　遠藤杏里

■　六年間りんごを育てわかったぞ農家の仕事大変なんだと

櫛引南小学校６年　宮野真帆

読んで字の如く単純明快。素直な心が人の心を揺り動かしてくれます。少子高齢化の進む中で歌を詠み発表してくれるのは頼もしい限り、自分の心を育む言葉を沢山学んで、時代の証になってください。継続は力なりです。毎年作って沢山の人に応募してもらいたいです。作者と同時に読者も生き生きします。皆さんの弥栄を祈ります。

（きたぐに短歌会会長・サキクサ特別同人　中浦多津子　記）